

寺山自然教育研究施設の帰化植物*

細山田 三 郎

Alien Plants of the Terayama Educational Station of Nature,
Faculty of Education, University of Kagoshima

Saburō HOSOYAMADA

ま え が き

鹿児島大学教育学部附属寺山自然教育研究施設の自生植物はおよそ560種²⁾(植栽種を含むと600種)であるが、その中で27種は外来のものである。これらの帰化植物**はやがては今よりもさらに多くなるであろう。それでこれまでに入ってきているものを明らかにして、今後の寺山のフロラの推移をみてゆきたいと考えている。

寺山自然教育研究施設産帰化植物

1. イタチハギ (*Amorpha fruticosa* L.) マメ科
別名クロバナエンジュ, ロシャハギ。
北アメリカ原産。戦後砂防用, 生垣用などに移入されたものが逸出, 野生化して各地に広がりつつある。本来の植生をこわすおそれがある。寺山ではマツ林に少数出現。
2. ムラサキツメクサ (*Trifolium pratense* L.) マメ科
別名アカツメクサ。
ヨーロッパ原産。明治の初め頃牧草として輸入したものである。牧草のほか肥料としてもよく, やせ地にもよく育つので全国各地にひろがった。畑地, 普通。
3. シロツメクサ (*Trifolium repens* L.) マメ科
ヨーロッパ, 北アフリカ原産。クローバーの名でよく人に知られた植物。いま全国的に広がっているものは, 江戸時代に渡来したものと別々に牧草や芝生用として輸入されたものであろう。土地のやせた所にもよく育ち牛や馬の飼料や肥料によいので, 全国各地に繁殖させた。牧草としての名はホワイト・クローバー。畑地, 普通。
4. イヌビユ (*Amaranthus lividus* L.) ヒユ科
全世界の温熱帯に広布する雑草。日本でも江戸時代の本草書に図説されている。畑地に出現。稍

* 1975年10月31日 受理

** 帰化とは普通人間が他の国に移り住み, その国籍を取得することをいうが, これを植物の分布にあてはめて, 外国から渡来して日本に定着するようになったものを帰化植物という。

普通。

5. アメリカヤマゴボウ (*Phytolacca americana* L.) ヤマゴボウ科
別名ヨウシュヤマゴボウ。
北アメリカ原産。明治のはじめ渡来，現在は本州以南の各地に広く帰化，よく人に知られた植物である。山地，極稀。
6. コハコベ (*Stellaria media* (L.) Villars) ナデシコ科
世界的な広分布種。1922年牧野富太郎により気づかれたもので帰化したものともいわれる。路傍，稍普通。
7. コニシキソウ (*Euphorbia supina* Rafin.) トウダイグサ科
北アメリカ原産。明治中ごろ渡来。今日では全国的に雑草化し，畑地，路傍，普通。
8. アレチマツヨイグサ (*Oenothera biennis* L.) アカバナ科
北アメリカ原産。明治後期の渡来。北海道から九州までみられる。畑地，路傍，稍稀。
9. アメリカアゼナ (*Lindernia dubia* (L.) Pennell) ゴマノハグサ科
北アメリカ原産。戦後渡来。路傍。極稀。
10. ベニバナボロギク (*Crassocephalum crepidioides* (Benth.) S. Moore) キク科
アフリカ原産。戦後九州に入り北上して関東地方まで入っている。伐採地あとに極普通に出現。
11. ダンドボロギク (*Erechtites hieracifolia* (L.) Raf.) キク科
北アメリカ原産。1933年愛知県段戸山ではじめて見いだされ，この名を得た。北海道を除き全国的に広がっている。腐植質に富む山林中に多いが，また耕地帯の湿地にもみられる。伐採地あとにも出現。
12. ヒメジョオン (*Erigeron annuus* (L.) Pers.) キク科
北アメリカ原産。明治維新頃渡来。非常に繁殖力が強く，今日では全国的に最も普通な雑草となり市街地や農耕地だけでなく亜高山帯まで深く入りこんでいる。畑地，路傍，極普通。
13. アレチノギク (*Erigeron bonariensis* L.) キク科
南アメリカ原産の植物であるが，世界各地に帰化し我国へは明治中頃に渡来。畑地，路傍，稍普通。
14. オオアレチノギク (*Erigeron sumatrensis* Retz.) キク科
南アメリカ原産。世界の暖・熱帯に広く分布する。日本では1926年，気付き，その後爆発的に広がり，最も普通な雑草となっている。畑地，路傍，稍普通。
15. ヒメムカシヨモギ (*Erigeron canadensis* L.) キク科
北アメリカ原産。日本へは明治の初め頃渡来，現在では北海道から九州まで日本全土にわたり厄介な雑草となっている。路傍，稍普通。
16. チチコグサモドキ (*Gnaphalium purpureum* L.) キク科
別名タチチチコグサ。

熱帯アメリカ原産。今では世界の熱帯暖帯に広く分布している。日本には大正末期に入ったといわれ現在は本州中部以南の各地で雑草化しつつある。畑地，路傍，稍普通。

17. キヌガサギク (*Rudbeckia serotina* Nutt.) キク科

別名アラゲハンゴンソウ。

北アメリカ原産。全国に帰化しているが特に寒冷地に多い。原野，稀。

18. セイタカアワダチソウ (*Solidago altissima* L.) キク科

北アメリカ原産。戦後入って来たものと思われ，1950年代に急に目立つようになった。密源植物，花粉病の原因，畑地の害草。路傍，スギ造林地，稀。

19. ノゲシ (*Sonchus oleraceus* L.) キク科

別名ハルノノゲシ。

繁殖力が強く元はヨーロッパ，アジア大陸の温帯のものである。現在では世界的に分布している。路傍，畑地，稍普通。

20. オナモミ (*Xanthium strumarium* L.) キク科

アジア大陸原産。日本のものは古い時代に帰化したものと思われる。山地，稍普通。

21. メリケンカルカヤ (*Andropogon virginicus* L.) イネ科

北アメリカ原産。戦後渡来。原野，稍普通。

22. ハルガヤ (*Anthoxanthum odoratum* L.) イネ科

ヨーロッパおよび温帯アジアに広布。明治初年に牧草として輸入され，スイート・バーナル・グラスの名で栽培，また全国的に野生化する。他の牧草に混ぜると家畜の食欲を増進させるという。原野，稀。

23. ヒメコバンソウ (*Briza minor* L.) イネ科

別名スズガヤ。

ヨーロッパ原産。本州中央部以南に広く帰化，沿海地から山地帯まで深く入りこんでいる。畑地，路傍，稍普通。

24. ジュズダマ (*Coix lacryma-jobi* L.) イネ科

別名トウムギ。

熱帯アジアの原産。本州以南に多く，特に水辺に群生する。古い時代の帰化植物栽培から野生化したものもある。植栽逸出。

25. ホソムギ (*Lolium perenne* L.) イネ科

ヨーロッパ原産。明治年間に渡来。ペレニアル・ライグラスの名で広く牧草として栽培され，また雑草化している。畑地，路傍，稀。

26. キシュウスズメノヒエ (*Paspalum distichum* L.) イネ科

別名カリタマスズメノヒエ。

熱帯アジアから北アメリカ，中アメリカに広く分布。大正13年帰化。現在は関東以西の暖地に広

く分布。水辺の湿地や浅水中にしばしば広大な群落をみる。山地、畑地、稍稀。

27. ヒメヒオウギズイセン (*Tritonia crocosmaeflora* Lemoine) アヤメ科

ヨーロッパにおいて交雑 (ヒメトウショウブ×ヒオウギズイセン *Tritonia pottsii*×*T. aurea*) によって育成された園芸植物といわれ、1890年頃渡来、現在もモンブレチア (古い属名) の名で庭園に植えられ、また腐植質に富む半陰地に自生状態となっている。植栽逸出。

以上の帰化植物を原産地別にみると北アメリカ原産が11種で一番多くヨーロッパ原産が7種、南アメリカ原産2種、アジア大陸原産2種、熱帯アジア原産2種とその他であり、世界的に広布しているものが2種となっている。次にこれらの帰化植物でイタチハギ、オナモミ、メリケンカルカヤ等が増殖の傾向にあり、本来の寺山の植生をこわすのではないかと思われる。

帰化植物率 (帰化率*) は4.5%である。

摘 要

一般に帰化植物は近年の急速な自然開発の進展と、戦後の海外諸国との交流の飛躍的な発展に伴ってその数が著しく殖えているといわれている。人によってはその種類数を700種とも800種とも数えている¹⁾。

鹿児島大学教育学部附属寺山自然教育研究施設に産する帰化植物は27種で数の上では問題にならない程少ないが、帰化率を指標にして地域の環境診断を試みた例もあるので、万一これから寺山の開発が進むならば帰化植物の増加を来たし寺山のフロラの無視できない存在となる時が来るであろうし、本来の植生をこわすおそれもありうると思われるので継続した観察と調査をし、そして帰化植物の進出を抑制するには遷移の進んだ植生を保つようにしなければならない。

参 考 文 献

- 1) 長田武正：日本帰化植物図鑑，北隆館 (1972)。
- 2) 細山田三郎：寺山自然教育研究施設の植物について，鹿大教育学部研究紀要自然科学篇 (第25巻)，(1974)。

Summary

The present paper deals with the Alien Plants of the Terayama Educational Station of Nature, Faculty of Education, University of Kagoshima.

The results are as follows:

In the area there occur 27 taxa. The percentage of the Alien Plants is 4.5%.

Amorpha fruticosa, *Xanthium strumarium*, *Andropogon virginicus* will propagate in the future. It necessarily follows that the flora of Terayama should be conserved not to propagate the Alien Plants.

* ある地域の植物の全種類数に対する帰化植物の種類数の比(%)をいう。

